



# 吉川友子後援会報

2023(令和5)年1月

# あなたとわたし 友&愛

発行：吉川友子後援会  
会長 上野昭久  
会計 高塚紀之

# No 36

幹事長 田村至  
事務局長 横山晴子



## 謹賀新年



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。  
旧年中は、議会活動や地域活動において大変お世話になりました。みなさまのおかげで、昨年地域や議会でも多くの活動に取り組むことができました。感謝申し上げます。

昨年はロシアによるウクライナ侵略があり、世界中の人々に大きな衝撃を与えました。佐久市議会ではこの侵略を強く非難する決議をいたしました。1日も早く、世界が平和になることを祈り、お互いを尊重する心を忘れずに日々を過ごしたいと強く思いました。

新型コロナウイルス感染症は、3年たった今でも私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。行動制限などもなくなり、少しずつ以前の生活に戻る兆しが見えてきたように感じます。昨年は、コロナウイルスに加え、燃料や肥料・飼料の価格高騰など、すべての人々の暮らしに影響を及ぼしました。輸入に頼った生活のせい弱さを感じ、食料やエネルギーの地産地消の重要性をつくづく感じた年でした。

佐久市においても、人口減少や一極集中、持続可能な地方自治の課題が多々あります。今年の5月には副議長としての任期が終わりますが、引き続き市民のみなさまのために働ける議員・議会であるよう努力してまいります。

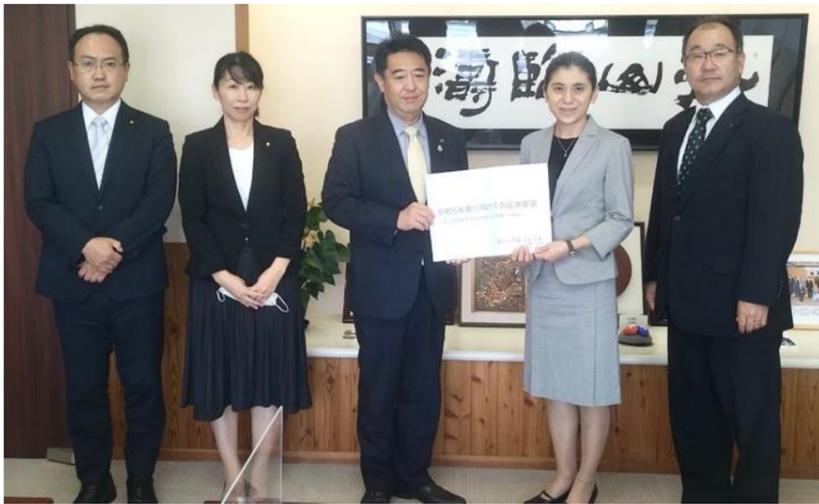
本年もみなさまのご健康とご多幸を心からお祈りします。

吉川友子

## 令和5年度予算に向けての会派要望

来年度に向けて、「みらいの風」会派より市長へ要望書を提出いたしました。主な内容は、以下のとおりです。

- ・有機農業の推進
- ・気候危機に関する定期的な講座や勉強会の開催
- ・マーケティング部署や統計学専門家の導入
- ・官民の子育て支援サービスを集約したプラットフォームの構築
- ・積極的な空き家対策 ・貸館サービス向上
- ・小海線の利用促進 など



## 有機農業を推進する木更津市を視察

新型コロナウイルス感染予防対策としての行動制限がなくなり、佐久市議会でも視察を再開いたしました。

会派では農水省と千葉県木更津市へ有機農業の推進について視察してまいりました。農水省では、2050年までに農地の25%を有機農地にするという目標を立て、有機農業を推進しているということで、取り組みについて研修してきました。

木更津市では、オーガニックシティ木更津として、「オーガニックなまちづくり条例」を制定しています。ここで言う「オーガニック」とは有機農業に限らず、「持続可能な未来を創るため、地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする考え方」として、多くの市内企業などもオーガニックアクション宣言企業として登録しています。学校給食でも有機米を使用していて、毎年有機米の生産量と給食での使用率を上げています。市では、有機米栽培の専門家の指導のために予算をとり、有機農家の育成にも力を入れています。田んぼも見せていただきましたが、深水で田植えをしてから田んぼには入らないという栽培方法で、雑草もほとんどありませんでした。これなら仕事しながらでもできると、参加する農家も増えていったそうです。佐久市でも研究の余地はあるのではないかと感じました。



## エストニア・モンゴルとの子ども交流 3年ぶりに再開！

昨年は念願の海外姉妹・友好都市との子ども交流も再開しました。佐久市からは行かれなかったものの、エストニアとモンゴルからは中学生が来日し、議会も訪れました。佐久市議会では女性議員連盟によるおもてなしが恒例となりましたが、今回は着物で抹茶をたてて歓迎いたしました。こうした交流が平和な社会を築いていくことを再確認しました。



(エストニアの校長先生からおみやげをいただく)

モンゴルの子どもたちと→  
エストニアの中学生と↓



紙媒体での会報が不要の方は、公式LINEアカウントにご登録いただき、その旨メッセージください。会報発行の際には、こちらから配信し、HP上でご覧いただけるようにいたします。



昨年的一般質問より

1. 動物と共生できる社会をめざして

(吉川) TNRとは猫を捕獲して、不妊去勢手術をし、元の場所へ戻すという活動です。佐久市は人と猫が共生できるまちを目指し、これ以上飼い主のいない猫が増えないようにTNRを推進し、手術に対して補助しています。過去5年間の飼い主のいない猫への補助実績と効果についてどう考えるか伺います。また、これまで、猫のために4回クラウドファンディングをしましたが、その結果と寄付金の使い方はどのようなものだったかお聞きします。

(環境部長) 過去5

年間の飼い主のいない猫への補助の件数と交付金額、寄付件数と金額は下表のとおりです。

	オス	メス	合計	補助金交付額	寄附件数	寄付総額
H29	55	58	113	455,000	-	-
H30	139	200	339	1,417,000	147	2,045,000
R1	106	132	238	978,000	154	2,310,000
R2	250	365	615	4,168,200	106	1,880,000
R3	330	341	671	4,477,700	178	2,860,000

実際にTNR活動を実施していただいてるボランティアさんからは、以前より活動に対して理解を示す市民や、参加するボランティアが増え、活動がより活発となり着実に飼い主のいない猫が減少しているというお話を伺っています。

寄付金は佐久市猫繁殖制限手術費

補助金における飼い主のいない猫に対する補助金や周知啓発

に使用するチラシ等の作成経費として活用しています。

(吉川) クラウドファンディングを始め

た平成30年に手術数がかかなり増えていますが、令和2〜3年も補助内容に変更がありましたか。

(環境部長) 令和3年度からは妊娠したメス猫に対しても補助を出すということ

で、頭数が増えていると認識しています。(吉川) 実際には、助成金では手術の費用の全てをカバーできていない状況です。

飼いが亡くなってしまった場合や、経済的に困窮している場合などもあります。クラウドファンディングに関しては、毎年多くのみなさんよりご寄付いただき、活動を支援していただいております。

2. 社会的な支援が必要

飼い主への援助

(吉川) 愛護動物に関する問題の中でも、多頭飼育の場合、その背景には社会的支援が必要な飼い主が多くいます。実際、猫のボランティアが家の掃除をしてあげたり、定期的に訪問したりといった例も珍しくありません。

環境省では「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン」を令和3年3月に策定しました。また、長野県では「動物愛護管理推進計画」を今年の3月に改定しています。その中で重点施策として、猫問題への対策、多頭飼育問題への対策、災害対策、動物取扱業者への対応、動物介在活動の推進の5つを挙げています。

(環境部長) 動物愛護に関する相談は、令和3年度中に53件ありまして、その中でも猫に関する内容の相談は43件ありました。

猫は繁殖力が強いので、管理できる頭数以上に増加し、飼育崩壊へつながってしまう場合があり、猫に関する相談のうち10頭以上の多頭飼育現場も5件あります。先ほど議員から発言がありましたように、本年3月に改定された長野県動物愛護管理推進計画では重点施策の一つとして多頭飼育問題への対策が掲げられています。

(吉川) 今部長がおっしゃったように動物の問題と人の問題と別々に扱うと、根本的な解決が難しいです。環境省が発行したガイドラインでは「連携なくして解決なし」と言っており、動物だけの問題ではないと認識されています。

一人暮らしの高齢者など人の孤立が原因となり起きる問題の一つとして動物の多頭飼育があると言われています。TNRや動物保護ボランティアは、飼い主や地域の人々とのやりとりなど人間の生活や環境衛生の問題解決を担っている場合が多いです。

3. 市民みんなで取り組めるような態勢づくりを

態勢づくりを

(吉川) 動物と共生できるまちづくりに向けて、住民が主体となって活動している地域もあります。区長さんや区民のみなさんの協力のもと、不妊去勢手術を行ったケースもあります。

佐久市では不妊去勢手術の補助金やTNR活動の推進についてご理解いただくために、どのように市民のみなさんへ広報しているか伺います。(環境部長) 不妊去勢手術の補助金については市広報誌「SAKURAI」や市ホームページ、FMさくら等により広報を行うとともに、クラウドファンディングの

中でも不妊治療手術費補助事業の必要性を紹介しています。啓発用リーフレット「人と猫が共生するまちを目指して」を活用して、TNR活動の周知をしています。猫は特に繁殖力が強く、猫に関する正しい情報を知らずに飼育すると、ねずみ算式に数が増えてしまい、飼育崩壊につながる恐れもあることから飼育する当事者だけではなく、市民のみなさまのご理解やご協力を得て、動物と共生できる社会が構築できるものと考えています。

(吉川) 佐久市で発行したリーフレットはよくできていて、猫が問題で困るという目線ではなく、どうやったら飼い主のいない地域猫も安心して暮らせるかということが書いてあります。市町村や保健所によって「外で猫を見つけたら、餌をやらなくて」と返事する方もいるそうですが、それでは動物のネグレクトを助長しているようなものだと思います。「餌をやらなくて」では動物と共生する社会ではないのです。

4. 災害時の避難所について

(吉川) コロナ禍によりペットを飼う家庭も増えたという報道もありますが、実際家族の一員として動物を迎え入れる人は増えています。そんな中、災害時に避難が必要となった場合、大変困るとの声を聞きます。ペットがいるから避難しないという方もいます。ペットと一緒に市民が避難できるような方法について伺います。

(環境部長) 近年高齢化や核家族化といった社会の変化に伴い、ペットを家族の一員として飼育する家庭が増加しています。環境省は平成29年7月に「災害時における愛護動物救護対策ガイドライン」を策定しました。市では、国や県のガイドラインを参考に市内42の指定避難所におけるペット対応マニュアルの6月中策定を目指し、作業を進めています。

(吉川) ペットを飼っている方たちは、有事どうしたらいいか考えていない場合もあるので、ガイドラインがあっても個々で備

えられるような案内があると助かると思います。長野県動物愛護管理計画の中でも、市町村の役割として災害発生時の同行避難を前提とした避難所等設置の主体となる、とあります。

声なき小さな生き物にやさしい地域は、子どもやお年寄り、すべての生き物にとって住みやすい地域です。そんな優しくゆとりのあるまちを目指して、佐久市が動物と共生できるまちになるよう、私も一緒に努力していきたいと思っております。

■議会で主張し、調査などにも参加して実施計画にもりこまれた政策

・生物多様性保全活動検証事業  
ニホンジカの食害により、山の植物の多様性が低下していないか、シカの生息調査も含めて、専門家などにより調査・検証を進める予算実現

・ペット同行避難整備事業

各指定避難所にペット同行で避難できるように、ケージなど必要な物品を準備

・川西赤十字病院への運営支援

佐久市・東御市・立科町で毎年1億6百万円を支援してきたが、来年度から上限1億5千万円までの運営支援を実現

・デジタルワーカーSAKU創生事業

女性デジタル人材育成プランに基づき、官民連携による支援、受講料補助など実現

・脱炭素移行・再エネ推進

公共施設での太陽光発電設備導入、民間事業者向け太陽光発電設備設置への補助

・公立保育所おむつ処理事業

お持ち帰りではなく園で処理が実現  
・シティプロモーション  
「教育×移住」「副業×移住」

(令和5年度〜7年度の実施計画より)

